

県内の遺跡・遺物28

さか と じょう あと 坂 戸 城 跡 (昭和54年国指定)

所在地：南魚沼郡六日町大字坂戸ほか

坂戸城は、南北朝争乱の時代、新田氏の一族によって築かれたと伝えられ、その争乱以後、越後守護上杉氏の守護代、上田長尾氏の本拠となり、房長の時代には本格的に築城工事が行われました。房長の子、政景は春日山城の長尾景虎（後の上杉謙信）と対立の末に家臣として仕え、その後、謙信は政景の子景勝を養子に迎えました。以後坂戸城は春日山城の支城となり、関東方面からの守りを固める拠点となりました。謙信の相続争いに景勝が勝利した御館の乱〔1578（天正6）年〕の時には、関東から侵入する北条氏勢力の重要なおさえとなりました。1598（慶長3）年、上杉氏の会津移封に伴い堀直寄が城主となりましたが、信州飯山城への改易とともに廃城になりました。

標高634mの山頂は本丸跡を中心に、尾根に沿って大小多くの郭と堀切り、土塁などがつくられています。城主の居館跡は西側に流れる魚野川や「埋田」とよばれている堀跡を防備に利用し、土塁で周囲をめぐらせ、西側に高さ2mほどの石垣を築いています。他にも家臣の屋敷跡、上田長尾氏の菩提寺跡や長尾政景の墓などの遺構も多数残り、麓に居館をもつ典型的な中世山城の中でも坂戸城は大規模なものです。現在も、古くからの交通・軍事上の要衝の地であった上田荘（南魚沼の旧称）を一望するように、堂々たる姿を見せています。



坂戸城跡（平成12年1月撮影）

おわびと訂正

前号埋文にいがたNo.29 8ページ

県内の遺跡・遺物27「金山城跡」の写真表題に間違いがありました。お詫びいたしますと共に、下記のとおり訂正をお願いします。

誤：奥山荘城館跡「願文山城跡」

正：奥山荘城館遺跡「願文山城跡」

埋文にいがた No.30

発行 (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新津市金津93番地1
TEL (0250)25-3981
FAX (0250)25-3986
e-mail: maibun@coral.ocn.ne.jp

印刷 有限会社 双葉印刷